



お元気ですか!

志村 たかよし です

第624号 2013年1月13日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

破たんは明白 深刻な土壌汚染、18,000本の埋設杭…

築地市場「移転」またまた延期

「現在地再整備」

こそ進むべき道

1月8日、東京都は、豊洲の土壌汚染対策工事が当初の見通しより長引くため、14年度中としてきた市場施設の竣工時期を1年延伸し、15年度とすると発表しました。豊洲では、08年に国の環境基準の4万3千倍のベンゼンが検出されるなど様々な有害物質が見つかり、11〜12年度に586億円かけて対策工事を進めていました。

ところが、昨年の秋、地下13mなど深いところにも汚染物質が見つかり、浄化する土の量が予測された約30立方メートルから約4割増えるため、土壌の入れ替えに時間がかかることとあわせ、地中に埋まっているコンクリート杭等を除去するため、今年3月に終えるのは難しいとの判断に至ったということです。

また、工期の延長に伴い、都は新年度予算に追加の対策費を盛り込まざるをえず、今年度に発注する予定だった新市場の施設の工事についても、新年度に延期するということです。

築地市場「移転」に、どれだけ税金を投入するつもりなのか。豊洲新市場建設に、莫大な税金と無駄な時間を使うのではなく、きっぱりと「現在地再整備」を決断すべきではないでしょうか。



地中深くまで汚染！完全浄化は不可能

新たにベンゼンが見つかった箇所は、都がこれまで「水を通さないで汚染がそれ以上深く広がらない」としてきた地層の内部でした。専門家からは「都の汚染処理策の前提が崩れた」との批判があがっています。汚染の広がりには全域にわたっているはずで、完全浄化は不可能に近いでしょう。



以前から指摘していた1万8千本の杭

むき出しになったコンクリート杭の一部。東京ガス工場建物の基礎杭が地中に1万8千本も埋まっています。コンクリートの除去により有害物質が拡散されるのは必至で、さらに汚染対策をしなければならぬという悪循環に陥る可能性も否定できません。

「賀詞交歓会」 今年の予算は925万円



国会議員（自民）の挨拶の時は、自民党の後援会集会のようで違和感も。

1月4日、今年も中央区賀詞交歓会が総合スポーツセンターで開催されました。約1200人が参加しましたが昨年より少なかつたそうです。経費は925万円（予算）で、参加者一人当たり約8千円となり、23区の中でもたいへん豪華なものとなっています。



コンパニオンによるウイスキーのサービスも。



会場の中心2カ所ある食べ物コーナーには人が集中。

「公害患者と家族の会」が区と意見交換



12月10日、「東京公害患者と家族の会」と「臨海部問題・中央区の会」は、区役所を訪れ、道路・街路樹対策や公害対策などについて、環境土木部長、水とみどりの課長（写真手前）と意見交換を行いました。

参加した鶴見祐策弁護士は区の取り組みを評価しつつ、引き続き懇談を重ねたいと感想を述べていました。

「意見」を要望など、お気軽に「連絡ください」(03-6396-6900)



にぎり寿司、そば、おでん、天ぷらなどの屋台も大繁盛。

